



公益財団法人

石川県

成人病予防センター
だより

[第44号]

いしかわ成人病予防センターだより

第44号 [2022年]

発行日 令和4年(2022年)2月発行
金沢市鞍月東2丁目6番地
電話 (076) 237-6262
FAX (076) 238-9207
郵便番号920-8201
郵便振替番号00750-7-16352
E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp
URL http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



金沢港クルーズターミナル 写真提供：石川県観光連盟

ごあいさつ

公益財団法人

石川県成人病予防センター

理事長 中泉 治雄

コロナ禍で迎えた令和3年度も終わりを迎えるようとしています。

Covid19が蔓延し感染予防のため、繰り返し返す手指のアルコール消毒により書類をめぐりにくくなり、今まで以上に手指ケアを要した方もおられると思われま

す。また、令和3年を代表する漢字は「金」でした。東京五輪、パラリンピックの金メダルラッシュ、大谷翔平選手の米リーグでの活躍がその理由とされました。

一方で目立ちは少なくても、コロナ感染者を激減させたことも、大きな金メダに値すると思います。

ここで一安心と思いきや、もつと感染力の強いオミクロン株の感染が忍び込んできているようで、気が抜けません。感染予防に努めないといけないようです。

また、北林あいこさん(けんこうかながわ)によると、日本人の一日の座り時間が、平日420分を超えており、調査した20ヶ国中最も長かったとい

います。座り生活が長いと、II型糖尿病、心筋梗塞、がん、果ては認知症の罹患率が増えたと心配されるので、適度の運動が勧められます。WHOの勧めによると、中強度運動では、ウォーキングなどの有酸素運動を週に150から300分程度を勧めるとのことです。

大切なことは、楽しんで続ける事です。うです。

今年も、楽しい一年にして行きましよう!

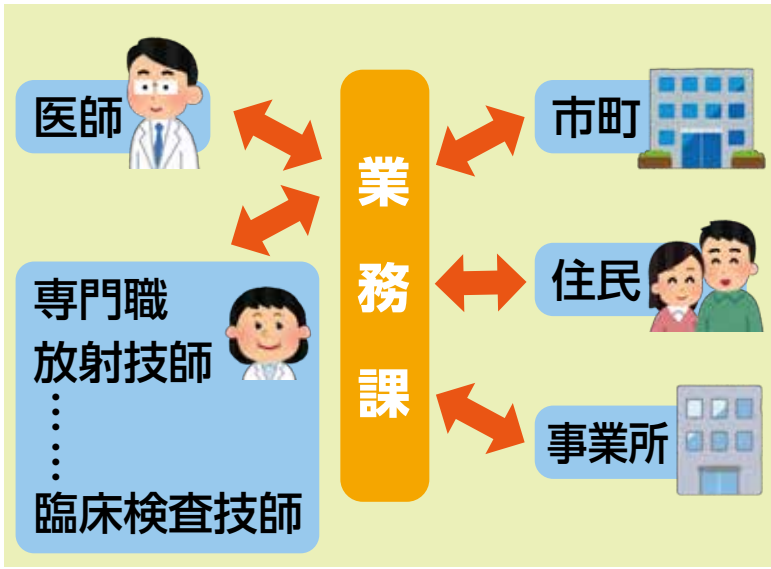
業務課って何をしているの？

「○○さん電話です」

健診期間中、市町から様々な問い合わせがあります。

今回の電話は「胃がん検診受診後に下剤を服用したが、バリウムの排泄ができない」と住民からの問い合わせがあり、どのような対応をすれば良いか？という内容でした。

このような場合は、専門職員の判断を仰ぐ必要があります。直ちに診療放射線技師に確認した上で、対応を市町の保健師に伝えます。



健診で起こる様々な事象についてパイプ役を担います

等々あらゆる事が業務課担当者伝わってきます。

もちろん内容が専門性を有する場合には医師、診療放射線技師、保健師、臨床検査技師等、専門職の判断を仰いで対応しています。

私たちに健診（検診）を委託しているのは市町だけではなく、公的機関、民間の事業所、各種学校など様々です。すべての健診で起こる様々な事象について委託元とのパイプ役を担い、そして、実際の健診に責任者として出務し、健診結果を委託元にお届けするまでが業務課の仕事です。

一般的には「営業職」と言った方がわかりやすいかもしれませんが、会社等で「営業職」をされている方々と同じように、業務課に所属する6名それぞれが、各市町や事業所を分担して受け持ち活動しています。

健診を実施するに当たっては、まず年間の計画を立てて行かなければなりません。

例年健診が終了する前後に、委託元と今年度の健診について反省会を開催し、改善すべきことが無いか協議します。その上で12月頃より、市町等との日程調整を始めます。

健診形態は市町によって様々で、総合健診としてすべての健診項目を同時に行うもの、がん検診のみを単独で行うもの、特に総合健診では他の健診機関と一緒にを行う場合もあります。

市町においては、住民が健診を受診しやすい環境作りを最優先とされていますので、出来るだけその要望を取り入れるよう調整していきますが、私たちが保有する人員、機材の数は限られていますので、その範囲内に収まるように市町・他検診機関との間で調整を行っていきます。

市町の日程調整が終わると、次に事業所の日程調整を行います。

業務課スタッフに聞きました

日程調整

同じ日をたくさん市町が希望されますが、検診車の台数にはかぎりがあるので、空いている日に移動をお願いします。



作業の様子

○年○月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	...
○○市	○	○	○		○	○	
□□市	○			○	○		
△△市	○		○	○		○	
○○町		○	○		○	○	
□□町	○		○	○	○		
△△町	○		○	○	○		

調整

↑日程調整をして計画的に

↑バラバラな申し込み予定を

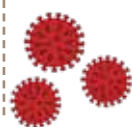


年間の日程調整が終わると、その計画に従い契約書、健診予約、各健診会場での受診者の動線、検診車の配置等の調整を行っています。

次年度の健診計画が決定した後には、前年の健診での反省点が十分に反映されているか等を再度確認し、その内容を些細な点に至るまで全職員に説明・情報共有していくのも業務課にとって大切な仕事です。

この一連の流れを改善しながら毎年行っています。

新たな課題。 新型コロナウイルス対策



世界中を震撼させ、いまなお続く新型コロナウイルスによる感染。

当センターにとっても、新型コロナウイルスによる影響は甚大なものとなっています。

一昨年は、4月中旬から5月にかけての健診はすべて中止となり、6月から徐々に健診業務を再開しました。

会場入り口に人員を配置しての検温、コロナ感染に関する問診票の確認、手指消毒の徹底等、これまでの健診風景が一変することになりました。



受付での検温

私たち健診従事者も、フェイスシールド、手袋の着用、機材の消毒と、いままでになかった作業が増え、コロナ対策に翻弄される毎日でした。

一番辛かったのは、3密を回避するため受診者数の制限を行わざるを得ず、健診受診の予約を希望されても、他の日時をご案内できればまだ良いのですが、空きが無いためお断りさせていただくことが少なからずあったことです。

新型コロナウイルスの感染対策を加味した日程の再調整、3密とならないような会場設営、手指消毒の徹底など市町、事業所との交渉には業務課職員が中心となり対応してきました。

衰えを見せないコロナウイルスとの戦いは、今も続いています。

業務課の最重要課題



当センターは、主に出張健診を行う機関です。

そのために多くの検診車を運用しています。検診車の更新には多額の費用がかかりますので、公益財団法人JKA（競輪・オートレース）や日本宝くじ協会などが実施する補助事業に応募しているのですが、全国からたくさんのお応募がありますので、応募すれば必ず補助してもらえると信じているものではありません。

また、補助金によっては上限金額が設定されているものもありますので、自己資金の積み立ては必須です。

十分な積み立てをするには収益がなければなりません。そのためには経費削減はもちろんですが、受診者を増やしていくことが重要になります。

また、「健康に対する投資」について関わっていただけるような新たな事業を考えていくことも必要です。

情報を入力し、今までと違った手法を考えだし、学習して行かなければなりません。

「お金が無いときは頭を使え」が、これからの業務課の最重要課題ではないかと思えます。

業務課では車両の 管理も行っています



業務課 町元 純

私は、業務課の仕事の1つとして車両の担当をしています。

肺、胃、乳、子宮、循環器検診車等20台近くの車両がありますが、それらのメンテナンス（特に、冬のこの時期は、車両のバッテリーが上がらないように、全車両について欠かさずバッテリーの充電を行うこと。）や車検、オイル交換等の日程の調整を行っています。

特に、1番気をつけていることは、車の故障が発生した時、翌日の検診に支障が出ないように修理日程の調整を迅速に行うことです。受診される方にとっては、年に1回の大切な体の点検日です。そんな時に検診車が来ない！ということがないように気をつけています。

これからも、性格の違う我が子をかかわいがるように、愛着を持って車に接していきたいと思えます。そして、私自身、日々勉強する姿勢を忘れずに精進していきます。

県民の皆さん、車も年を重ねると故障箇所が増えてくるように、人間の体も調子が良くない場所が生じてきます。体が元気な時こそ、「年に1回の健康診断」を必ず受診して、体調を把握し、健康な毎日を過ごすように心がけましょう。





七尾市
ななおし
NANAO CITY

わが町のがん検診

七尾市

保健師

鍛治

真沙代

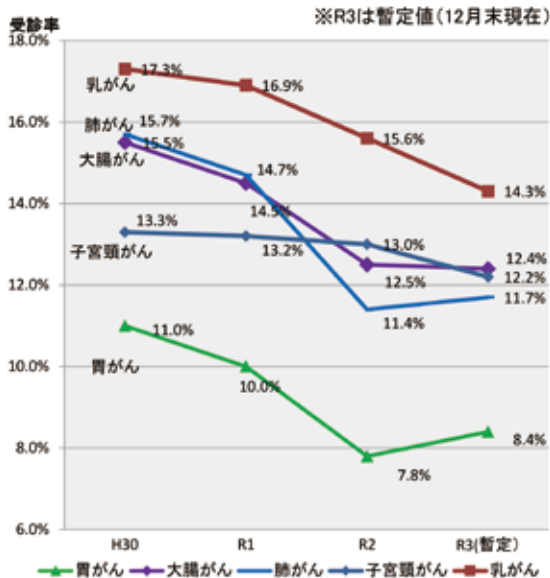
写真提供：石川県観光連盟

七尾市は石川県の北部、能登半島の中央に位置し、七尾湾を中心とした漁業と能登固有の農業文化が栄え、かつては城が置かれ能登地域を統治した都市です。総面積318.29km²、令和3年11月末現在の人口は50,253人、年少人口は9.6%、高齢化率は38.3%と少子高齢化が進んでいます。

七尾市の集団検診は従来28会場45日間、がん検診だけで年間約5,000人が受診します。200人規模の中核的な会場と50〜80人規模の地区コミュニティセンターや集会所の巡回を併用しながら5月から12月まで続きます。

令和2年3月、新型コロナウイルスの感染者は全国に広がり、小・中・高校は臨時休校。そして令和2年4月、全国に5月6日までの緊急事態宣言が発出。集団検診の予定変更は不可避となりました。個別通知の印刷にストップをかけ、大慌ての修正作業が始まりました。しかし開始日を遅らせるにしても、緊急事態宣言は本日に5月6日で解除されるのだろうか。解除されたとして安全に検診を行うことは可能なのだろうか。まだ新型コロナウイ

R1～R3七尾市がん検診受診率(全年齢人口)



※石川県方式による算出
※乳がん、子宮がん検診は、集団+医療機関の合計受診率

ルスに関する情報も少ない中、なかなか答えが出ませんでした。

最終的に5〜6月の検診を中止、開始日は7月という判断をしました。県内の市町の中では早い決定だったと思います。また地区コミュニティセンターや集会所では「3密」を回避することができないため、中核的な会場だけを使用し、検診日程は45日間から26日間に減りました。また石川県成人病予防センターの方々や関係機関と打合せ、日程を組みなおし、1回に受診する人数の上限を設けました。胃がん検診を例に挙げれば、前年度の受診者数は2,327人。26日間になると受け入れ枠は1,828人となり、希望者全員を受け入れることができません。七尾市ではこれまで事前申込制を取っておらず、申込ハガキはあくまで受け入れ側の準備のためでした。今回はハガキによる事前申込で人数を制限し、受付時間も30分区分りで指定、希望日が偏った場合は石川県成人病予防センターから希望日の変更をお願いする通知を出していただきました。

次に会場での「コロナ問診」(手指消毒・マスク着用の確認・体温測定・問診票を使った体調確認)と会場内の動線について、七尾市より一足先にがん検診が始まった志賀町の検診を見せていただき、それを参考に配置・待機列・動線を考えていきました。配置は大幅に変更。使ったことのない給湯室まで利用し、人の交差をできるかぎり減らした動線を作りました。また、品薄になっていた消毒液などの衛生用品を揃えることも一苦労でした。

令和2年7月、集団検診開始。「地区の会場がなくなつた」「希望日を断られた」という声は想定内でしたが、苦情殺到を覚悟していた検診会場では、コロナ問診や動線の変更・受付時間前の待機について、不満はあれども仕方がないと黙って受け入れてくださる方が大半で、中には毎回の受診者数が一定になることで「検診が混雑して

いない」と喜んでいただけました。これは想定外の反応でしたが、苦情が出なかったのは私たちのガチガチに固めた防護服姿が怖かったのかもしれない。防護服だけでなく椅子や手すりの消毒方法や換気の頻度など、どこまですればいいのかわからないというのが一番困りました。試行錯誤の末、何とかコロナ禍1年目の集団検診を終えましたが、受診率はすべてのがん検診で低下。仕方がないとはいえ残念な結果でした。

そして令和3年度、新型コロナウイルスの感染は終息の気配を見せず、「3密」を避ける取り組みは継続となりました。地区の巡回もまだできません。検診日程だけは26日間から34日間まで戻すことができ、偏らなければ希望者は全員受け入れ可能となりました。

ところが、意外なところで受診者数が伸び悩んでしまいました。新型コロナウイルスワクチン接種です。中核的な会場はワクチン接種の会場でもあるため、重なった日はワクチン接種を優先し、がん検診は別の会場に変更しました。会場が変わっても日数は増えたのから問題ないと思っていました。蓋を開けてみれば変更した会場はガラガラという結果でした。また検診の前半は予約が埋まらず、後半になって予約枠の取り合いが起ってしまったのも、先にワクチン接種を終えてからがん検診を受診したいと考えた人が多かったのではないのでしょうか。令和元年度の受診率まで近づけたかったのですが、令和3年度の受診率は横ばいに近い増加となるようです。

がん検診を受診してほしいけど、もし受診者が検診会場で感染してしまつたら…。そんな迷いがずっとありません。しかし、早期発見の機会を失わせるわけにもいきません。途切れることなくがん検診を受診していただければ、受診勧奨および感染対策に努めていきたいと思っています。石川県成人病予防センターの方々には今後ともご協力の程よろしく願っています。

新|人|紹|介|



コロナ禍でも健康診断の受診を 専務理事 青木 哲雄

昨年4月に専務理事に着任し、事務局を統括しております。

当センターでは、県民の健康や福祉の増進への寄与を目的とし、がん、脳卒中、心臓病などの生活習慣病や結核の予防のため、集団検診、ピンクリボンプロジェクトやリレー・フォー・ライフ・ジャパン、複十字シール運動などの啓発普及、検診精度の維持向上など、様々な事業に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症は世界全体に大きな影響を与えており、令和2年1月に国内で陽性者が確認されて以降、本県でも健康診断をはじめ、経済活動や日常生活等に大きな影響を及ぼしています。

当センターが令和2年度に実施した集団検診の受診者数は、日程の変更や日数の削減、3密を避けるための人数制限などにより、前年度に比べて、がん検診で25.8パーセント、結核・循環器検診で9.0パーセント、合計で19.2パーセント減少しました。

日本対がん協会の調査では、令和2年の検診受診者数は、前年に比べて30.5パーセント減少し、受診を見送るうちに未発見のがんが進行がんとなり、治療の選択肢を狭めかねないと、定期的ながん検診の受診を呼び掛けています。

また、結核予防会では、令和2年の新登録結核患者数は前年に比べて11.9パーセントの減少となりましたが、健康診断の停止縮小、医療機関への受診控えなど、患者発見への影響が大きく、対策の強化を続ける必要があるとしています。

定期的な健康診断やがん検診の受診が、生活習慣病の予防やがんの早期発見・早期治療につながります。当センターでは、県民の皆様方が安心して、健康状態をしっかりチェックしていただけるよう、健診会場での換気や消毒など、日々の感染防止対策に職員一同引き続き努めてまいります。

当センターを支えていただいている会員の皆様、県、市町、医師会、大学等関係機関の皆様、そして検診を受けていただいている事業所、県民の皆様方には、引き続き温かいご支援をお願いし、ご挨拶いたします。



熊田 有希 〈業務課 書記〉

(採用年月日: 2021.4)

- 出身地: 石川県白山市
- 趣味: サウナ、キャンプ、サイクリング、お酒を飲むこと
- 特技: バドミントン、けん玉
- 好きな食べ物: ラーメン、お刺身
- メッセージ:

昨年4月に当センターの非常勤職員に新任、業務課書記として検診車の運転・検診業務に携わっております。

この仕事に就くにあたり大型二種免許を取得。まだまだ未熟ではありますが大きな検診車の点検や運転・検診会場での業務・がん検診についての知識を深める等、初めての職種・業種なため毎日が新鮮で勉強の日々です。

フェイスシールドや手袋は、この仕事に就かなかつたら着用する機会は無かつたと思います。プライベートでもコロナにかからないよう注意を払うようになり、自分以外の周りの方へ『移らない・移さない』配慮の気持ちもこの仕事に就いたことにより更に増しました。

がんから身を守る最高の手段は、定期的ながん検診を受け、たとえばがんが罹患したとしても、早期に発見→治療することです。そうすれば決して恐ろしいものではないことを再確認していただきたいと思います。

しかし日本の検診受診率はまだまだ低く、昨今のコロナの影響もあり更に受診率が低下しているとのことです。

我々はコロナ感染予防・対策の徹底をし、お客様が安心して検診に足を運んでくれることを切に願っております。

一人でも多くのがん患者を救うことが、公益財団法人に身を置く私たちの天職であることを自覚し、日々の仕事に自信と使命感をもって行きます。



市川 貴子 〈看護師〉

(採用年月日: 2021.5)

- 出身地: 富山県高岡市
- 趣味: ヨガ、アロマセラピー
- 特技: すぐに眠れること
- 好きな食べ物: ステーキ、ケーキ
- メッセージ:

こんにちは。私は主に一般健康診断、がん検診の業務に携わっています。

以前は病院とクリニックで勤務していました。センターでの業務は、短時間で大勢の受診者様に対応することが多く、今まで経験したことのない業務に、戸惑い圧倒される日々ですが、受診者様や関わりのある方々、業務から多くのことを学び成長できる良い機会を与えていただいております。そして、皆様に親切にご指導をいただき、温かい職場で働かせていただき幸せに思っています。

慣れないことが多いですが、ひとつひとつのことを確実に丁寧に、スピードを上げて出来るようになります。

心がけていることは、受診様が安心して気持ちよく健診を受けていただけるよう出来るだけの配慮をすることです。

当センターで健診を受けて良かったと思っただけのよう、取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願ひいたします。



寺本 千恵 〈検診普及課 看護師〉

(採用年月日: 2021.5)

- 出身地: 金沢市
- 趣味: 猫と遊ぶこと
- 特技: 特になし
- 好きな食べ物: 甘いもの
- メッセージ:

昨年五月より、循環器健診を主に担当させて頂いております。

まだまだ業務に不慣れで、皆さまにはご迷惑をお掛けすることも多々ありますが、一件一件確実にこなしていけるようがんばります。



コロナ禍の 結核対策をアピール

田中副知事表敬訪問

結核予防運動として複十字シール募金運動が8月1日から12月31日まで実施されました。

昨年はコロナ禍により実施できまらなかったが、今年度はまん延防止等重点措置終了後の11月29日に結核予防婦人会の能木場由紀子会長、結核予防会石川県支部の青木事務局長をはじめとする担当者で県庁を訪れ、田中副知事に結核予防運動への理解と募金への協力をお願いしました。



金沢市の広報TV番組 「いいね金沢」の撮影に 協力させていただきました

金沢市では医療機関が実施する「すこやか健診」と「集団検診」の2本立てで健康診査を行っています。

令和3年度の健診が始まるにあたり、健診を受けることの重要性や、健康診査の内容、受診方法などを広報番組で紹介することになったとのことで、そのテレビ取材に協力させていただきました。

以前、石川県の広報番組で取材を受けた際は乳がん検診（マンモグラフィ）について説明させていただきましたが、今回は胃がん検診（バリウム検査）についての説明ということになり、胃がん検診担当の水口グループリーダーが、胃がん検診車内で行っているコロナ対策やバリウム検査の様子について説明しました。

急なことでもあり、何をすればいいのかもわからずあたふたしていたのですが、アナウンサーの入江さんを始め、スタッフの皆さんから指示してもらったりしながら撮影を終えることが出来ました。

金沢市の担当者さん、MROのスタッフの皆さん、このような機会をいただきありがとうございます。



がん克服者の会

石川よろこびの会

がんの早期発見・早期治療を訴えてがん検診の重要性を幅広く県民の皆さまに理解して頂くことを活動方針として活動している「石川よろこびの会」ですが、一昨年から「コロナウイルス蔓延で、昨年に引き続きさみしい一年になりました。」

このような状況ですが、7月には能登地区で開催されたぶどう狩りに参加し、皆さんの元気なお顔を拝見でき、勇気をいただきました。

また、9月のがん征圧月間では、リレーフォーライフとかなざわピンクリボンプロジェクトが主催するメッセージ・ツリーに共催させていただいております。

いまだ続くコロナ禍ですが、1日も早く収束し皆さんとの活動が出来ることを祈っております。



編集後記

コロナウイルスが猛威を振るい始めて早くも2年になります。

緊急事態宣言の発令による業務中止期間を経て、徐々に再開した集団検診ですが、3密の回避、人が触れる場所の消毒等の対策を徹底することで、この2年間の健診を乗り切ってきました。

このような状況下、胃・乳がん検診で使用してきたフィルムの生産が終了することになりました。そのため胃がん検診では1台減車することになりましたが、市町みなさんのご協力により年間計画を立てることができました。乳がん検診においては、デジタル撮影装置を2台搭載した検診車を制作することで対応していきます。

生活の場でも、健診会場でも、健診会場で運用する機器の面でも大きな変化があり何かと不自由が多い状況ですが、今回紹介した業務課共々、健診に携わる皆さんとの繋がりを大切に事業を行ってまいりますので、よろしくお願いたします。